



7月21日

工作や実験でこどもフェスタが盛況

恵那文化センターで21日と22日の2日間、こどもフェスタが開催されました。会場には手軽に楽しめる工作や不思議な科学実験を中心に、2日間で40のブースが勢揃いし、大勢の親子連れらでにぎわいました。山岡町から母親と共に来場した山岡小学校6年生の長谷川優芽さんは「モザイクタイルを木に貼り付けてキーホルダーを作りました。かばんに掛けて使いたいです」とうれしそうに話しました。

各ブースの受け付けや工作の補助には、市内中学校の生徒の他、高校生や大学生がボランティアスタッフとして参加。約200人が参加し運営を支えました。



7月12日

大人も子どもも取り組む交通安全

7月11日から10日間、夏の交通安全県民運動が実施され、市内各所でさまざまな活動が行われました。

12日には市交通安全女性連絡協議会の会員が恵那北小学校を訪問。1年生児童に「通学中の交通事故に気をつけてね」と、反射ステッカーを配布しました。同協議会は期間中、全ての小学校を訪問し1年生児童へ配布しました。13日には消防防災センターで交通安全市民大会が開催され、地域の交通安全活動に功労のあった個人や団体が表彰されました。会場では交通安全の取り組みを全員で唱和するなどし、交通事故の防止が誓われました。



7月1日

墨塗りの子らが水を浴びせられ厄払い

大井町御所の前の阿弥陀堂周辺で、市無形民俗文化財に指定されている行事「送り神」が行われました。これは御所の前自治会で300年以上前から続いている伝統的な厄払いの行事。全身に墨を塗った子どもたちが、男女2体のわら人形を先頭に地域内を練り歩き、家々の軒下で待ち構えた大人たちに塩水を浴びせられ、家の厄をもらっていきます。

この日は、うだるような暑さの中、2歳から小学6年生までの26人の子どもが参加。バケツにくんだ水を豪快に浴びせられると「わー」「冷たい」などと大きな声を上げて喜んでいました。



6月23日

恵那東防災リーダーが研修

恵那東中学校で、恵那東防災リーダー育成実行委員会が研修を行い、生徒ら14人が災害時の避難所運営や防災リーダーの役割について学びました。

この日は同校の体育館が避難所になったと想定し、避難所運営ゲームを演習。避難者の情報が書かれたカードを読み上げ体育館の平面図に配置しながら、避難者の特性に応じて、どのような配慮が必要か話し合いました。3年生の室井美洋さんは「災害時は当たり前に使っているものが、使えなくなる。配慮が必要な人もたくさんいる。想定しておかなければいけないことがたくさんあることを知りました」と話しました。



7月22日

スケート場は夏シーズン真っただ中

武並町のクリスタルパーク恵那スケート場で無料インラインスケート教室が開催され、5歳から38歳までの10人が上達を目指し汗を流しました。参加者は立ち方や転び方、足の運び方などの指導を受けました。大井小学校2年生の伊東尚悟君は「初めてインラインスケートをやった。先生が丁寧に教えてくれたので、転んだけど滑れるようになった」と満足そうに話しました。

スケート場では8月24日までの毎週金曜日、午後5時からインラインスケートの滑走料が無料^{*}になる他、かき氷のプレゼントや夜店でのバザーなどが催されます。夕涼みに来場してはいかがですか。

^{*}貸し靴代500円は必要です。



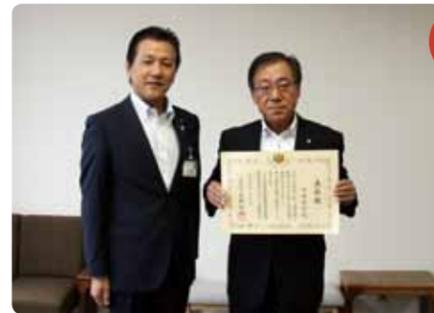
7月14日

コーラスで天の川イベントが開幕

市中央図書館で天の川イベントが始まりました。

開幕を飾ったのは、恵那市少年少女合唱団によるコーラス。小学校2年生から高校3年生までの20人が歌声を披露し、美しい歌声が響き渡りました。チャリティ古本リサイクルでは、募集した不用本や保存期間を過ぎた雑誌などがずらり並びました。好みの本が無料で受け取れるとあって、訪れた読書好きや親子連れらは目を輝かせながら選びました。

天の川イベントは8月26日まで開催しています。週末を中心にお話会や歴史講座など、さまざまな催しがめじろ押しです。



7月4日

商店街振興で経済産業大臣表彰

大井町の総合衣料品販売店「株式会社フジシマヤ」代表取締役社長の大家康芳さんが、商店街功労者として経済産業大臣表彰を受け、市役所で受賞報告会が行われました。

恵那まちなか市やスリーオンスリーバスケットボール大会などの行事開催、商店街防犯パトロール隊の結成や防犯カメラの設置に取り組むなど、長きにわたり商店街の振興に貢献したことが認められ、今回の表彰に至りました。大家さんは「30年以上商店街に関わってきて、これ以上ない名誉ある賞を受け光栄。次世代の後継者を育てていくことが今の自分の使命」と話しました。



6月26日

明智中学生がプロの料理技術を学ぶ

明智中学校で「プロの料理人による子ども料理教室」が開催され、1年生34人が、地元で活躍する料理人から、地元食材を利用して健康に配慮した料理の作り方を学びました。卵焼きの作り方の実演では、料理人が器用に卵を巻いていく様子に、生徒はくぎ付けになっていました。

プロの技術を学んだ後は、生徒が実際に調理を開始。井畑礼蘭さんは「市販の顆粒だしの素と違って、自分で最初から作っただしは香りも良い。塩を使わなくても、だしや野菜をうまく使うことでおいしくなることが分かった」と話しました。今後も市内の中学校を会場に実施される予定です。